

主な出展リスト

- ◆ 薄井憲二バレエ・コレクション蔵書票 / 画: オレーグ・コニャーシン / ロシア / 1990年 (KU-000)
- ◆ 薄井憲二 / ポリショイ・バレエ・アカデミー名譽教授証書 / ロシア / 1999年 (KU-002)
- ◆ 薄井憲二 / 『踊りの魂賞』 / 冊子 / ロシア / 2016年 (KU-005)
- ◆ 集合写真 / 左上より時計回りに、内田道生・鈴木滝夫・東勇作・薄井憲二 / 日本 / 1940年代 (AYM-05)
- ◆ 書籍 / 編: 東勇作同門会 / 『牧神: 或いは東勇作: 生誕100周年記念誌』 / 東勇作同門会・東博子 / 2010年 (AYM-12)
- ◆ 書籍 (メッセージ入り) / 著: 蘆原英了 / 『古典舞踊の基礎』 / 日新書院 / 1942年 (BK-2880-tec-ws)
- ◆ 書籍 (メッセージ入り) / 著: ミリセント・ホドソン / 『優美さに対するニジンスキーの罪: (春の祭典) 初演振付の復元』 / アメリカ / 1996年 (BK-0204-pie)
- ◆ 写真 / モスクワ国際バレエ・コンクール (第5回) / ロシア / 1985年 (Doc-COM-16-10)
- ◆ バッジ / モスクワ国際バレエ・コンクール (第5回) / ロシア / 1985年 (B-12・13)
- ◆ ポスター / 『ル・レーヴ (夢)』 / 画: テオフィル・アレクサンドル・スタンラン / パリ・オペラ座 / フランス / 1890年 (PO-41)
- ◆ 書籍 / 『バレエ千一夜』 / 著: 薄井憲二 / 新書館 / 1993年 / 参考 (PP)
- ◆ 書籍 / 『ディアギレフ・バレエ年代記 1909-1929』 / 著: セルゲイ・グリゴリエフ / 監訳: 薄井憲二 / 訳: 森塚依子ほか / 編集: 関口紘一・大石範子 / 平凡社 / 2014年 / 参考 (PP)
- ◆ 舞台写真 / 『春の祭典』で『賢者』を演じる薄井憲二 / 兵庫県立芸術文化センター開館ガラ公演 / 撮影: 飯島隆 / 日本 / 2005年

インタビューにご協力いただいた方々

(敬称略、アイウエオ順)

蘆田ひろみ、安達哲治、有馬えり子、うらわまこと、岡本佳津子、唐津絵理、小林秀穂、佐々木チトセ、佐藤一紀、関口紘一、中川真樹、西田恭子、藤村順一

主な参考文献

- ◆ 『ロシア・バレエ・インスティテュート10年史: 1988-1998』 / ファミリーマート / 1998年
- ◆ 編: ダンスマガジン / 『日本バレエ史: スターが語る私の歩んだ道』 / 新書館 / 2001年
- ◆ 編: 東勇作同門会 / 『牧神: 或いは東勇作: 生誕100周年記念誌』 / 東勇作同門会・東博子 / 2010年
- ◆ 編: 小山久美 / 『公開講座「日本バレエの創成期を語る—日本におけるバレエ教育の成立と変遷」報告書』 / 学校法人東成学園 昭和音楽大学舞台芸術センター バレエ研究所 / 2012年
- ◆ 日本近代演劇デジタルオーラルヒストリーアーカイヴ / <https://www.hbnk.cfbx.jp/oth/archives/107>
- ◆ 責任編集: 長塚英雄 / 『ドラマチック・ロシア in JAPAN. 5』 / 生活ジャーナル / 2019年
- ◆ 取材執筆: 半谷史郎 / 『バレエ評論家・薄井憲二のソ連体験: シベリア抑留とモスクワ平和友好祭の思い出(上)(中)(下)』 / 『愛知県立大学外国語学部紀要(地域研究: 国際学編)』 / 2019~2022年
- ◆ 編: 有馬龍子記念一般社団法人京都バレエ団 / 『伝承の芸術 そして未来へ』公演プログラム / 2024年

Kenji Usui Ballet Collection

The Work of Kenji Usui: Bridging the World of Ballet

2024/9/18 (Wed.) ~ 2024/10/14 (Mon.)

(2024/10/14は祝日開館日です。休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関 典子 (せき・のりこ / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。お茶の水女子大学賞「小泉都子賞」など受賞。

◎ 企画・解説・取材

斎藤 慶子 (さいとう・けいこ)
Keiko Saito

日露バレエ交流史研究。早稲田大学文学学術院講師(任期付)。著書『「バレエ天国」日本の夜明け: チャイコフスキー記念東京バレエ学校1960-1964』(文藝春秋企画出版部 / 2019年)他、訳書にサイモン・モリソン『ポリショイ秘史』(共訳 / 白水社 / 2021年)がある。

アシスタント: 若林絵美 (Emi Wakabayashi) 後藤俊星 (Shunsei Goto)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二・バレエ・コレクション 2024 企画展

薄井憲二生誕100周年記念 薄井憲二の仕事 ～バレエの世界に架橋する～

2024/9/18 (Wed.) ~ 2024/10/14 (Mon.)

(2024/10/14は祝日開館日です。休館日はwebでご確認ください)

2024年は、当コレクションの収集者である薄井憲二(1924-2017)の生誕100周年にあたります。これを記念して、本企画展では彼の仕事を振り返ります。薄井は、ダンサー、振付家、舞踊評論家、舞踊史研究者、コレクターとして活動し、第四代日本バレエ協会会長を務めました。

彼は、1985年に審査員として参加したモスクワ国際バレエ・コンクールをきっかけとして、世界のバレエの専門家たちと幅広い交流をもちました。人材の紹介をつうじて日本に世界のバレエの成果を伝えるとともに、外国の舞台を目指す日本のダンサーの手助けをしました。世界のバレエの動向についての豊富な知識に裏打ちされた発言によって人々の行動に影響を与えたのです。彼はまさにバレエ界のインフルエンサーであったと言えるでしょう。

本企画展のために、彼とともに仕事をなさった方々にインタビューにご協力いただきました。会場では、人々の想い出と共に、彼の仕事の一部をご紹介しますと思います。

Hyogo Performing Arts Center

「生涯の師、東勇作」

幼少期にイゴール・ストラヴィンスキーの『火の鳥』のレコードを聞いたことから、薄井はバレエ・リュスに関心をもちました。バレエ・リュス作品の上演があると知って、東勇作バレエ団の公演(1942)を観劇します。公演プログラムに告知のあった蘆原英了(1907-1981)主宰のバレエ研究会「バレエ友の会」に参加し、作品紹介や歴史の講義を受けます。自分でもやってみなくては踊りはわからないということで、やがて東勇作(1910-1971)のバレエ団に入団しました。バレエ・リュス作品の翻案や、日本舞踊家とのコラボレーションといった東バレエ団の活動が、のちの薄井の志向を定めました。

AYM-05 集合写真 / 左上より時計回りに、
内田道生・鈴木滝夫・東勇作・薄井憲二 /
日本 / 1940年代



「世界のバレエ」

薄井は、1985年に第5回モスクワ国際バレエ・コンクールの審査員を務めます。この経験がきっかけとなって、世界のバレエ専門家との交流の道が拓かれました。同時に、日本のバレエ雑誌『ダンスマガジン』等にコンクールのレポートやバレエの歴史解説の記事を寄稿するという定期的な執筆活動も始まります。



B-13 バッジ / モスクワ国際バレエ・コンクール
(第5回) / ロシア / 1985年



Doc-COM-16-10
写真 / モスクワ国際バレエ・コンクール(第5回) / ロシア / 1985年

世界のバレエの専門家との交流が、のちに、兵庫県やNBAバレエ団、日本バレエ協会などの日本の団体が彼等を招聘して行った公演事業の一助となりました。これはまた、20世紀末に開始された古典バレエ作品の復元上演という世界のトレンドを日本にもたらしました。2005年に兵庫県立芸術文化センターの柿落し公演の一環として上演されたバレエ『春の祭典』(イゴール・ストラヴィンスキー作曲、ヴァーツラフ・ニジンスキー原振付、ニコライ・レーリツヒ原美術・衣裳、ミリセント・ホドソン復元振付、ケネス・アーチャー復元美術・衣裳)では、薄井は企画に携わるほか、みずから出演を果たしました。バレエ・リュスを代表する作品のひとつです。



舞台写真 / 『春の祭典』で「賢者」を演じる薄井憲二 / 兵庫県立芸術文化センター開館ガラ公演 /
撮影 飯島隆 / 日本 / 2005年



「日本のバレエへの関心」

薄井は、20世紀初頭の日本の帝国劇場で上演された初期の日本バレエや、19世紀末に外国で上演されたジャポニズムのバレエ作品にも強い関心を持っていました。2018年7月に京都バレエ団が上演したフランスのジャポニズムのバレエ『ル・レーヴ(夢)』(レオン・ガスティヌル作曲、ヨゼフ・ハンセン原振付、ファブリス・ブルジョフ構成・演出・振付・指導)の公演を発案したのも薄井でした。京都バレエ団に招聘されたパリ・オペラ座バレエ団メートルド・バレエのファブリス・ブルジョフと薄井が意気投合したことが、1890年のパリ・オペラ座で初演されたこの作品の現代日本における上演につながりました。



PO-41 ポスター / 『ル・レーヴ(夢)』 /
画: テオフィル・アレクサンドル・スタンラン / パリ・オペラ座 /
フランス / 1890年

「啓蒙活動」

戦後、薄井は自らダンサーとして活動すると同時に、東宝芸能学校や京都バレエ専門学校などで教育活動を行いました。やがて、世界のバレエの観劇体験を活かして、作品のリハーサル教師としても力を発揮します。さらに、東京・南青山に設立されたロシア(元ソビエト)・バレエ・インスティテュート(1988年~1998年)の所長を務め、のちに国内外で活躍することになる日本人ダンサーの成長を見守りました。

このような現場での活動とともに、薄井の仕事として重要なのが、バレエの歴史に関する啓蒙活動です。1998年にセゾン美術館と滋賀県立近代美術館が開催した「ディアギレフのバレエ・リュス展1909-1929」には薄井のコレクションからの出品が多くありました。また、バレエの教育機関やコンクールなどで、バレエの歴史についての講義・講演を行うほか、バレエ関連書籍の翻訳出版にも力を注ぎました。



書籍 / 『ディアギレフ・バレエ年代記1909-1929』 /
著: セルゲイ・グリゴリエフ / 監訳: 薄井憲二 / 訳: 森瑞依子ほか /
編集: 関口雄一・大石範子 / 平凡社 / 2014年 / 参考(P.11)